

2011 年頭所感



財団法人企業経営研究所 理事長

岡野光喜

さらなる10年への布石

昨年は、中国が国内総生産（GDP）で日本を追い抜き、世界経済の重心が、米国の個人消費から、成長著しいアジアの新興国の実需に大きく変化した年であった。加えて資源を巡る各国間の競争が活発化し、中国の膨張主義に伴う隣国との軋轢や、朝鮮半島情勢など安全保障上の問題が注目された一年となった。

わが国経済は、一昨年の政権交代により閉塞感からの脱却が期待され、政策効果により、自動車や家電など一部業種で回復がみられたものの、資産・物価デフレの進行が続き、円高による国内産業空洞化懸念が改めてクローズアップされるなど依然として、課題は山積している状況にある。

21世紀に入り、10年間でITバブルの崩壊、リーマンショックという2度にわたる不況に見舞われたわが国企業は、少子高齢化や市場の成熟化といった国内需要の減退に対応すべく、雇用・設備の見直し、海外市場への展開などさまざまな努力を続けてきたが、世界中で進行しているグローバルな市場経済への移行に対処するには、まだ力不足の感が否めない。

戦後わが国は、欧米へのキャッチアップを目標に、官民ともにためまぬ努力を続け、所期の目標を達成した。しかし、バブル崩壊以降、目指すべき姿を描ききれないまま、現在に至っている。経済が成熟化していく中で、国民全体が描く日本像は多様化し、時代とともに

変わってきている。ここで改めていうまでもなく、我々は、価値観が常に変化し、グローバル化が予想を超えたスピードで進む時代に身をおいており、変化こそが常態であり、それに対応する心構えや覚悟が企業経営者に求められる。

経済学者のシュンペーターが論じるように、不況時こそ創造的なイノベーションが行われる。経営環境が大きく変化する今こそ、自社の経営資源を見つめなおし、新たなものを構築するという姿勢が必要となろう。これからの10年に向けて新たな成長のための布石を打つ時である。

一方、地域経済社会をみると、基幹産業の衰退、雇用の低迷により未来の姿が見えない地域も散見される。しかし、これからは地域の潜在力をフルに発揮する取組がますます必要となり、そのためには、地域住民がグローバルな視点に立って自らのアイデンティティを見つめ直し、地域独自のグランドデザインを描き、変化に対して主体的に取り組んでいく姿勢が求められる。

弊所も引き続き地域経済社会の発展に寄与すべく努力を積み重ねてまいります。皆様の一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。年頭の挨拶といたします。

CONTENTS

2011 WINTER Vol.113

年頭所感	岡野 光喜
波濤	2
逆明治維新改革を地域から	北川 正恭
特集	3
2011年の経営課題	
これからの日本企業の経営戦略	三品 和広
人材の特徴を見据えた教育・研修・施策を考える	式守 啓介
伸びる中国・インド等の新興国市場	繁田 奈歩
TOGETHER TALK	16
第55回 お客さま 夏野 剛さん	
ビジネスリーダー	22
はやぶさの快拳と日本の宇宙産業	鈴木 明子
経済展望	26
2011年上期の経済・金融展望	美和 卓
インタビュー	30
ハードロック工業株式会社	若林 克彦
トレンドの芽は女ゴコロにあり!	34
第8回 「理系」にハマる女ゴコロとは?	石田 美穂
地域フラッシュ	36
静岡 岡／伊豆半島ジオパーク構想の取り組みについて 神奈川／新種小麦に「夢」託す	
RESEARCH EYE	38
静岡県東部地域企業経営動向調査	
TOPICS	40
2010年度海外研修・研究等助成事業 研修報告	
編集後記	